

令和4年度 第1回 横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和5年1月24日（火） 10時00分～11時30分
- 2 場 所 横浜みなとみらいホール レセプションルーム
- 3 出席者 丸山 宏 委員長、石田 麻子 委員、伊藤 裕夫 委員、田中 操 委員、箕口 一美 委員
- 4 欠席者 無し
- 5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	<ol style="list-style-type: none">1 定足数の確認2 委員会の公開・非公開について3 令和3年度業務評価
議事・ 委員意見等	<ol style="list-style-type: none">1 定足数の確認 「横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱」第7条第3項に基づき、委員数5名のうち5名の出席により定足数を満たしており、会議の成立を確認した。2 委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「令和3年度業務評価」の審議については公開とした。3 令和3年度業務評価<ol style="list-style-type: none">(1) 指定管理者による業務報告及び自己評価 指定管理者から、令和3年度の実績及び自己評価についての説明があった。(2) 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。(3) 委員による評価 委員から指定管理者に対する評価内容の説明及び質問を行った。 <p>《主な意見及び質疑応答》</p> <p>委員 横浜WEBステージは、アーカイブの充実を含め、可能性が多分にあるが、みなとみらいホールらしさ、特徴をつくっていくようなものがあるのかというところが少し分かりにくかったという印象。</p> <p>指定管理者 横浜WEBステージは、コロナにより困窮したミュージシャンたちの経済的な支援から始まったが、結果的に映像として残す価値のあるものをアーカイブとして残すことができた。それによってホールの国際発信ができること、ホールに来ることができない方にもコンサートを提供できること、客席から見えない革新的な映像を提供できること、聴覚障害の方が映像で音楽を楽しむことができたこと、主に4つの大きな社会課題を解決することにつながったということが成果。</p>

委員 ホール再開館後に通常事業を行うことと、休館中に行った事業を継続することの両立は大変なことだ。どのような比重で、どのような考えでこれから経営をしていくのか。

指定管理者 多くの事業を外部でやるのが初めてで、各ホールや地域の特性に合わせてコンサートを展開することが大切だと、学ぶ機会になった。

正直、すごく手間はかかっているのですが、ホール再開館後に同じようを実施することは難しい。ただ、18区コンサートで会場サイズに合わせ、コンチェルトをソリストと弦楽五重奏というサイズで演奏した際、今までと違う響きで、お客様も含め新鮮な驚きがあった。そのようなコンテンツとして新しく発見できたものをホールの中でも生かしていきたい。

今後、地域に出ていく機会というのは、まだこれから検討が必要。ただ、財団全体としては、これから地域との連携に軸足を重くしていかないとはいえないと考えている。専門の各施設がどのように地域と連携できるかを組織として検討していく時期になっていると考えている。

委員 休館中に行った事業を再開館後に継続することは相当大変だが、これはみなとみらいホールにとって大きな転機ではないかと考える。劇場、音楽堂等の公立文化施設に対して文化庁の期待しているものは、地域文化拠点になるということ。みなとみらいホールが積み上げてきた専門性、ノウハウ、アウトリーチ事業や地域の区民文化センターや学校との連携などを期待されていて、現体制でそれができるかを指定管理者が考え始めるんだと理解した。

海外の事例として、アメリカでは地域に向けての教育普及と若手育成という部分をホール内に部署を設ける事例がある。2009年の段階で専従職員が28人おり、現在はもっと大きな組織となっている。ニューヨークシティの5つの区に向けて音楽を発信し、ここに生まれ育った子供たちは必ずクラシック音楽に触れる機会があるように活動を続けていて、まさに地域の文化拠点という役割を果たしている。

アジアでは、シンガポールが同じようにやっていて、メインホール以外の場所を活用して、誰でも音楽が聞ける環境を365日つくっている。地域活動を行っていく拠点を徐々につくっていて、それに携われるアーツマネジャー及びアーティストの育成にも関わることを、独立した部署がやっている。この傾向は、ヨーロッパでも広がってきている。海外でも地域密着型の活動が広がってきている。日本でも実は少し早くに始まっているが、思い切りがなく中途半端でうまくいっていない。でも、横浜市とみなとみらいホールは長年お互いハンド・イン・ハンドで横浜市の文化施策を担っており、変わっていけると思っている。

また、休館期間中に何をやったかをアーカイブとして残すこともお手本となるが、落下防止柵の件も経緯を残してもらいたい。ホールをつくるのは行政の仕事、中身をつくるのは指定管理者の仕事と役割分担をしていない横浜市だからこそ、この件に早く手が打てたと思う。改修時の経緯を残し、今後のお手本で残してほしいのが強い要望。

指定管理者 落下防止柵の件はホールにとって不幸な事件だったが、これをきっかけに、解決に向けて横浜市と指定管理者との間の話し合いがより密接になった。反省点としては、再開館までに話し合いができていればということ。この件により、受け身ではなく、もっと市に働きかけるということがようやく始まったところで、これからのいい方向に進むしかないと確信している。

横浜市 本当に私たちも反省材料として今後に生かす必要があると思うので、指定管理者と共に協力しながら対応していく。

委員 横浜市という地の特殊性がある。東京の隣にありながら、横浜プライドみたいなものもしっかり持っている。その顔となるホールがどう歩いていくのかというのは、市民のみならず、東京都民、日本全国のホール関係者のみならずファンの皆さんも期待とともに見ている。何を見ているのかというと、ホールの気概とか、市の支えっぷりとかを見ている。
きちんと政策的に固めながら、ホールとしての色をどう出していくかをこれから進めていただくことを期待している。

委員 文化政策の問題になるが、今は地域における文化振興の位置づけが非常に曖昧。指定管理者制度になり、特に施設の維持管理に焦点が置かれるようになった。横浜市の場合は財団が運営しているので、財団は市とパートナーとなって、施設だけではなく地域の文化振興を図っていくミッションを持っているはずだが、どのような形で今後整理していくのか。

その場として政策経営協議会がもっと活性化してほしい。そこでの議論が、これから先10年を考えると重要になってくる。

アーツカウンシルなどもだが、地域において様々な活動をしている民間の団体などもあり、施設も複数あるので、それを全体的に統括するのは、行政の一部局だけでやるのはかなり無理だ。そういう意味で財団の役割をもう少し立て直していくことも必要だ。

また、文化施設と独立した形での、一種の中間支援のような、外部に出て様々な仕掛けやプログラムを出していく団体は必要だと思う。そういうものに挑戦していくことを、今回の経験を基に市が提案していただきたい。そういう形で、いいモデルが生まれていくことを期待したい。

委員 市への要望は、専従者の人数。組織をつくるだけではなく、地域活動の手間のかかり方は分かっていると思うのだが、企画制作が10人としたら、外に行く組織には30人ぐらい必要。そういうことを横浜市はみなとみらいホールに今回、行政評価で求めているということをお願いしたい。

横浜市 しっかりしたお答えになるか分からないが、横浜市は中期計画を4年毎に更新しながらつくっており、最新の計画の中でも、新しい挿入語として、市民に身近な文化芸術創造都市を進めていくという方向性を打ち出している。これから色々な問題がより顕在化していく地域コミュニティの活性化のような部分に、文化芸術の力で地域を活性化させ、心豊かな市民生活を維持していくという方向性も出している。

それを支えるために、基本的に1区1館で整備を進めている区民文化センターがあるが、その他に、みなとみらいホールをはじめとした専門施設があり、それぞれ役割分担しながら連携して、どういう形で市民に対して持続可能な形で豊かなサービスを提供していけるのかを、正解がない中で、関係者で知恵を絞ってこれから考えていかないといけないと思っている。

中期計画は方向性を打ち出したもので、それを具体的にどうアクションに落としていくかは、これから行政としても、また財団と一緒に考えていかなければいけない。また、様々な文化団体や民間の方たちに対する中間支援的な立場も含めて、幅広い様々な活動資源、文化資源などネットワークをつなぎながら、方向性を打ち出していけるように考えたい。

また、具体的な課題解決に向けた話し合いの場として、政策経営協議会とか、あるいはホールをはじめとして、美術館とか様々な施設個別とも、それぞれの分野における文化芸術振興の在り方を考えていきたいと思う。

	<p>そのような問題意識をもって、日々、財団の皆さんと問題に取り組んでいることをご説明させていただきたい。</p> <p>指定管理者 これだけの人材やお金が必要であるということを示していくために、音楽だけに閉じた活動ではなく、公立文化施設が地域の文化拠点になるためにはどうしたらいいのか、良い音楽、コンサートをやることだけではなく、医療系の施設と連携するなど、本当に地域の方たちに必要とされているものに積極的に入り込んで、音楽というものも文化的手法になり得るような活動というものを具体的に示していく必要があると感じている。</p> <p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Just Composed、ミュージック・イン・ザ・ダーク、18区コンサートなどがきちんと政策目標とリンクした形で行われている。 ・ 休館中に行った事業で得たものは、今までとは違ったことが貴重なこと。 ・ 休館中にも関わらず多く事業を行ったことは、大変だったと思う。そこで得た様々なコンテンツの可能性を活かしていくという決意を聞かせていただき、うれしい。文化庁の多くの補助金を得られたのは、中核館を拠点として地域への働きかける事業が大きく評価される傾向にあり、休館中に外に出ていく活動を積極的に行ったことが、顕著な活動、それに対する期待としての結果ではないかと思う。 ・ 今期の政策目標は、各委員からの経営的な視点、経理的な視点の意見もあり、また政策協働型で市と指定管理者が一体になったような運営というのが根付いてきたと思う。特に今回の大規模改修での休館中の運営に、一体化しているところが生かされてきている。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生プロデューサーは、すごく興味を引く面白いものだが、今後2年目、3年目をどういう形で展開していくかが課題となるので、まず狙いがどこにあるのかをもっとはっきりさせたほうがいい。 ・ これから電気代がものすごく増えてくる中で、助成金の確保とかをしっかりとしなければ赤字に陥ると思うので、その点努力していただきたい。 <p>4 その他 特になし。</p>
<p>まとめ</p>	<p>本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。また、議事録については委員長確認後に確定のうえ、公表する。</p>